

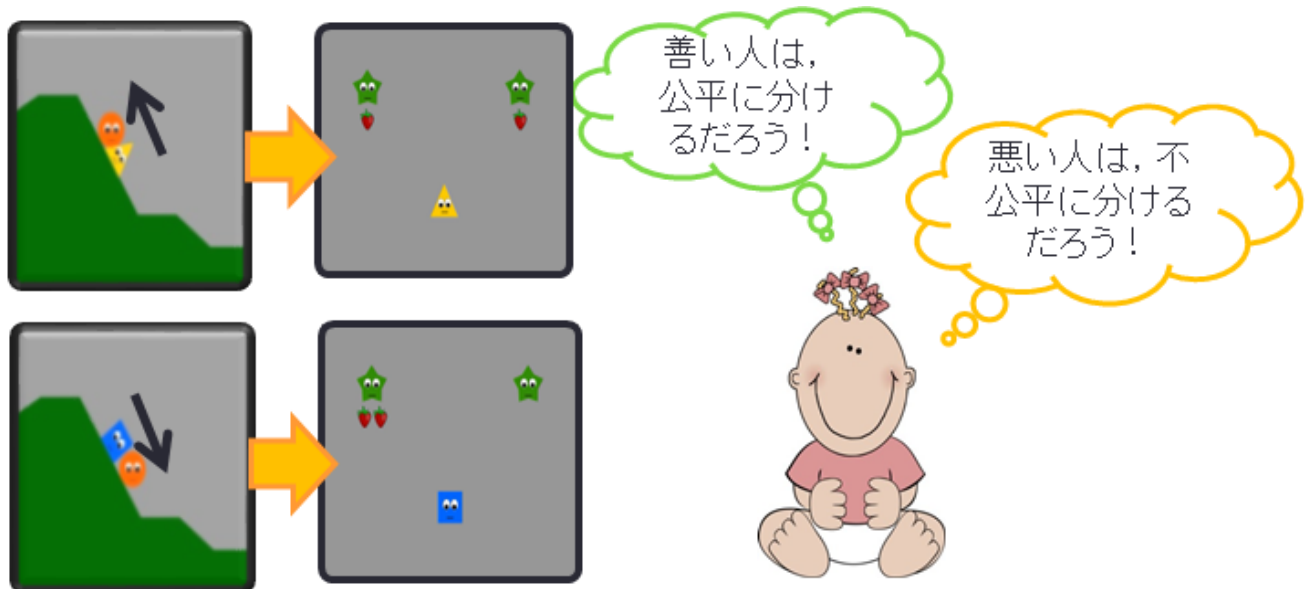
# 赤ちゃんは、良いことをする人は公平だと思うか

## —14ヶ月の赤ちゃんは、善悪の振る舞いを基に公平性を判断する—

### 概要

赤ちゃんは、公平感に対して高い感受性を持つことが示されています。例えば、物を2人に分配するときに、公平に分配されることを期待していることがこれまでの研究でわかっています。京都大学大学院文学研究科板倉昭二教授らのグループは、イタリア、スウェーデンのグループと合同で、14ヶ月児を対象に、こうした公平感の知覚が、事前の善悪の振る舞いによって影響を受けるか否かを検討しました。例えば、黄色い三角形がオレンジ色の円を助けてあげる、青い四角形がオレンジ色の円の邪魔をする場面を見せた後、それぞれの図形が、イチゴを他の図形に分配する場面を見せました。赤ちゃんは、自分が予期しない場面を見た場合には、その事象を見る時間が長くなることが知られています。実験の結果、良いことをした図形が不公平に分配すると、赤ちゃんはそれを長く見ましたが、悪いことをした図形がどのように分配しても見る時間には差は見られませんでした。つまり、赤ちゃんは、良いことをする者は、公平に分配することを予期していると思われます。本研究によって、赤ちゃんは、当該個体の善悪の振る舞いに基づいて、公平に分配するか否かを判断することが明らかになりました。

本成果は、2018年9月7日にスイスの国際学術雑誌「Frontiers in Psychology」にオンライン掲載されました。



## 1. 背景

近年の研究で、赤ちゃんは極めて早い時期から公平性に対する高い感受性を持っていることが示されています。しかしながら、善悪の振る舞いと、分配行動の関係は検討されていません。本研究では、赤ちゃんが、妨害や援助といった行動と公平性をどのように結びつけているのかを検討しました。すなわち、限られた資源を誰かに分配する場面で、赤ちゃんが、善い行いをする人は公平に分配し、悪い行いをする人は不公平に分配すると思うか否かを調べたのです。

## 2. 研究手法・成果

本研究では、14 ヶ月児を対象とし、期待違反法（赤ちゃんは自分が予期しない事象を長く見るという傾向）を用い、先行刺激として、事前に、あるエージェント（動作の主体者のことをこう呼びます）が、他者を助ける場面と邪魔をする場面を見せて、後で、そのエージェントが資源を分配する場面を見せます。その時に、1）良いエージェントが公平に分配する、2）良いエージェントが資源を不公平に分配する、3）悪いエージェントが公平に分配する、4）悪いエージェントが不公平に分配するという、4つの場面を見せられ、それぞれに対する注視時間（それぞれの場面を見る時間）を計測しました。その結果、14 ヶ月の赤ちゃんは、良いエージェントが不公平に分配した場合には、注視時間が長くなりましたが、悪いエージェントが公平・不公平に分配しても、注視時間には差が見られませんでした。どうやら、赤ちゃんは、良いエージェントは公平に分配することを期待しているらしいことがわかりました。また、赤ちゃんは、分配は公平になされるべきだと考えていることが先行研究で示されていますが、悪いエージェントの行いは、この傾向を弱めることがわかりました。

## 3. 波及効果、今後の予定

本研究によって、赤ちゃんの公平感の知覚に、先行して呈示される善悪の振る舞いが影響を与えることがわかり、赤ちゃんの向社会行動（他者の利益をもたらすような行動）の理解が、早い時期に生起していることが示され、赤ちゃんの社会的認知に関する知見がまた一つ加えられました。今後は、赤ちゃんにおける、その他の向社会行動と公平性をどのように関連づけるのか、調べていきたいと思えます。

## 4. 研究プロジェクトについて

本研究プロジェクトは、科研費基盤研究 A によって実施されました。関連研究機関は、京都大学の他、トレントン大学（イタリア）、エーテボリ大学（スウェーデン）です。

### <論文タイトルと著者>

タイトル：Do infants attribute moral traits? Fourteen-month-olds' expectations of fairness are affected by agents' antisocial actions（乳児は道德特性を帰属するか？14 ヶ月児の公平性に対する期待は、エージェントの妨害行為に影響される）

著者：Luca Surian, Mika Ueno, Shoji Itakura, Marek Meristo

掲載誌：Frontier in Psychology DOI：10.3389/fpsyg.2018.01649